

【76】今福の明見院としだれ桜

梅雲山寛窓寺明見院（みょうけんいん）は、小仙波中院末寺として、寛文3年（1663）に創建されました。現在の本堂と庫裡は安永8年（1779）に第五世豪圓による建立といわれ、本堂の屋根は昭和38年（1963）に草葺から瓦葺に改修されました。



しだれ桜は、安永8年の本堂・庫裡の落慶記念樹として中院の幼苗が植樹されたもので、ウバヒガンザクラの一変種です。樹齢は200年以上、樹高15メートル、幹周2.2メートルで、本堂の向かって左前に大きく枝を広げ、3月下旬、ソメイヨシノに先立って開花します。開花期にはライトアップもされ、夜桜も楽しめます。

今福菅原神社

明見院のすぐ脇にある菅原神社は、承応元年（1652）の創建で、下奥富村（狭山市）にある梅宮神社を勧請して今福村の鎮守として建立されました。明治の神仏分離令が出されるまで、明見院の歴代別当が当神社も取り仕切りました。参道の両側には梅の木が12本植えられ、毎年花を咲かせ、多くの実をつけます。



毎年4月15日には、「今福川越まつりばやし」（埼玉県無形民俗文化財）が行われます。今福の囃子は芝金杉流といい、ほかに比べてゆっくりとした調子であるのが特徴です。

青面金剛（庚申塔）

9世紀に造られたとされるこの青面金剛像（しょうめんこんごうぞう）は、頭と胸にあるどくろの飾りが特徴的な庚申塔（こうしんとう）です。



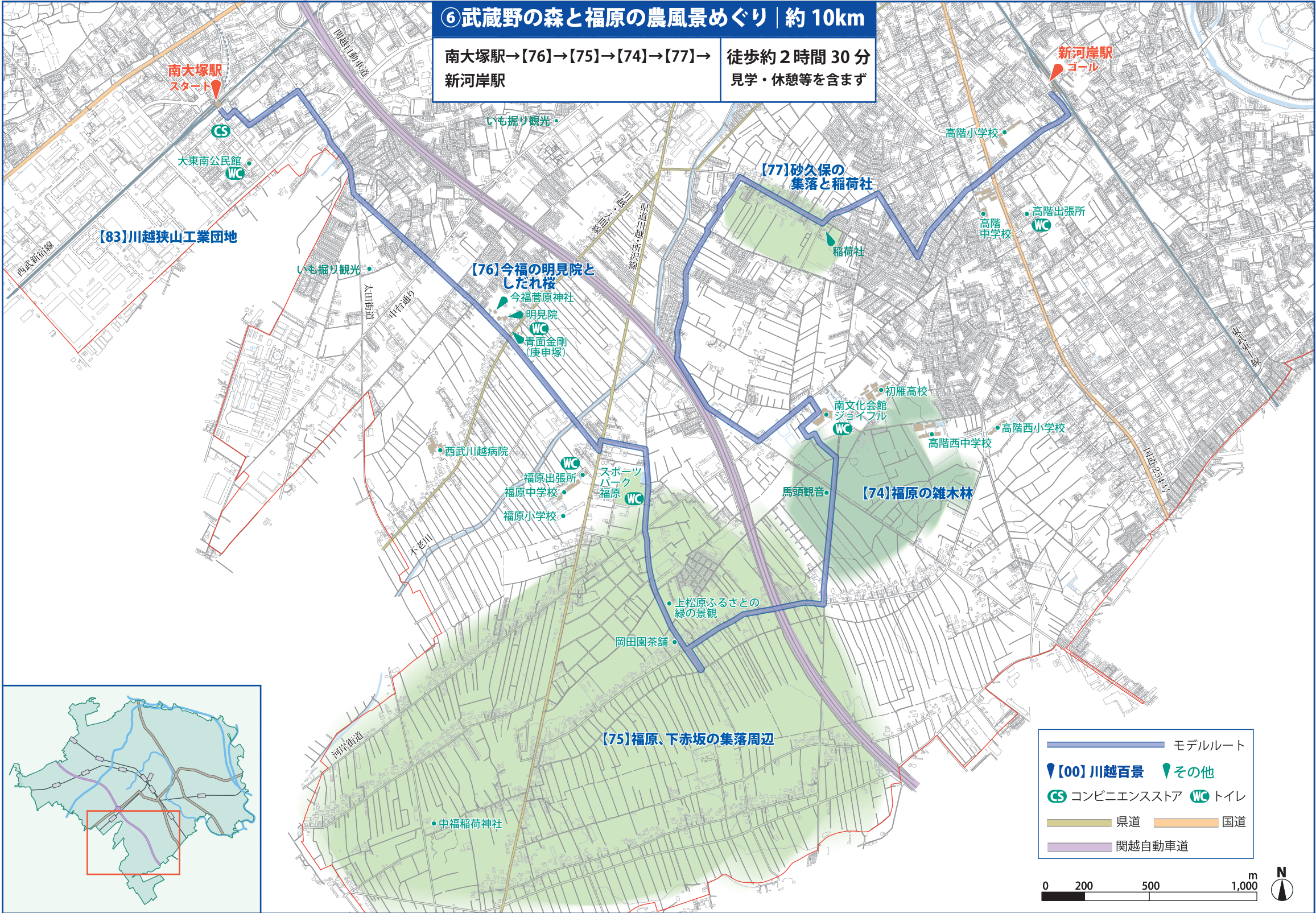
【75】福原 下赤坂の集落周辺

下赤坂は、松平信綱による武蔵野開発で最初に着手された9か村のひとつで、現在も開発当時をしのばせる地割が残され、特徴的な景観を見せています。地割はほぼ南北に短冊形を成し、道路をはさんで南側に耕地、北側に屋敷、また、屋敷の背後には防風林と燃料の確保を目的とした屋敷林が設けられ、通称ヤマと呼ばれます。



中福稲荷神社

毎年4月19日の祈禱祭で、市の無形民俗文化財に指定されている「中福の神楽」が披露されます。相模流の里神楽で、特定一族が元締めとなり代々伝承しています。古事記や日本書紀に基づく「神代もの」を中心に奉納されます。



【74】福原の雑木林

福原地区は、江戸時代に武蔵野の原野を開墾してできた新田村落がその起源です。水田はなく、広々とした畑地が広がり、ところどころに畑作農業に必要な雑木林があり、今も昔の景観をとどめています。武蔵野の雑木林は、クヌギ・コナラ林であり、クリやアカマツ・ケヤキなどが混じっています。人為の加わった植生ではあっても、百年単位で育まれてきた里山林です。川越藩主松平信綱の施策により拓かれたこの土地は、武蔵野を象徴する環境として、また、お茶やサツマイモ、サトイモなどの首都圏における一大耕作地として大切にしたい場所です。



森のさんぽ道

南文化会館ジョイフルの南側には、武蔵野の面影を残す広大な雑木林があります。公園計画地内の公有地と、地権者の協力を得て整備された、雑木林の中を通る遊歩道があります。

馬頭観音

武蔵野ふれあいの森の中の交差点に庚申塔と馬頭観音が 있습니다。庚申塔は明和2年（1765）2月の銘があり、下松原村で建てたものです。「右川越左所沢」と刻まれ、道標となっています。馬頭観音は3基ともすべて文字塔です。いちばん大きなものには明治39年（1906）の銘が刻まれています。



【77】砂久保の集落と稲荷社

砂久保は正保2年（1645）に開発された新田集落です。この集落の南側には、松平信綱の開発による新田がいまも残されています。街道に沿って両側に刈り込まれた生垣と屋敷林が緑の帯を形成し、その先にこんもりとした砂久保稲荷神社の社叢がアイストップとなり、全体として緑豊かな印象を与えています。

神社の本殿は天保14年（1843）の造営で、江戸彫を多用した一間社流造、屋根は板葺です。また、「砂久保障場跡」として、中世の河越城をめぐって上杉氏と北条氏が争った河越夜戦の際、この周辺に上杉氏の陣が張られたと伝わります。

